

平成 29 年度第 3 回江別市上下水道事業運営検討委員会 議事録

日 時：平成 30 年 1 月 26 日（金）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

場 所：水道庁舎 3 階 A 会議室

委員出席者：10 名

木村克輝委員長、桶谷洋幸副委員長、佐藤拓也委員、宮前清委員、
塩越康晴委員、千葉幸子委員、古川淳子委員、石川茂治委員、
五十嵐拓也委員、蛭名悦子委員

事務局出席者：10 名

佐藤水道事業管理者、安井部長、田中次長、廣木検査員、岩渕総務課長、
坂総務課参事、里水道整備課長、斉藤浄水場長、五島浄化センター長 外

傍 聴 者：1 名

1. 開会

委員長： ただいまから、平成 29 年度第 3 回上下水道事業運営検討委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

この会議は、公開することとなっておりますので、ご承知おきいただきたいのですが、本日は、傍聴を希望される方がいらっしゃるということで、傍聴を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

（異議なし）では、希望者の方をお招きいただきたいと思います。

～ 傍聴者入室 ～

2. 水道事業管理者挨拶

委員長： それでは、議事に先立ちまして、水道事業管理者のご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

水道事業管理者： 本日は、猛吹雪の中、何かとご多用のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、上下水道ビジョンが主題でございまして、10 年に一度の大きな策定作業となっております。

江別市では、平成 30 年度までを計画期間とした「水道ビジョン」と「下水道ビジョン」に基づき、目指す将来像に向けた取組を進めてきたところでございます。

水道事業は、昭和 31 年に開始し、市勢の発展に対応した拡張事業により段階的に施設整備を進め、高度浄水処理の導入や配水区域のブロック化、定期的な洗管作業、石狩東部広域水道企業団への参加による広域連携の推進等により、安全な水道水の安定供給に努めてきました。

また、平成 26 年に発生した断水災害を契機に、原水貯留施設の整備や緊急貯水槽の増設、給水車の増車、札幌市との緊急時連絡管の整備等、災害対策も進めてきました。

下水道事業は、昭和 39 年に開始された道営大麻団地を契機に始まり、昭和 41 年には市の公共下水道事業を開始し、江別駅周辺の既成市街地から順次、市街地の拡大に対応して処理区域と施設を拡張し、公衆衛生の向上や都市の浸水対策、公共用水域の水質保全、下水汚泥の資源化に努めてまいりました。

また、水道水源である千歳川の汚濁防止を図るため、南幌町の汚水を当市の浄化センターで処理する広域化にも取り組んできました。両事業とも 30 年以上の長期にわたり、消費税以外での料金等の値上げをしないで、健全経営を維持してきたところでございます。

しかし近年は、水道・下水道サービスの提供に必要な施設等の老朽化に伴い更新需要が増大する一方で、人口減少や節水機器の普及により水需要が低下し、初めて収入が減少傾向に転じました。職員の退職に伴う技術力の維持や、台風や豪雨、地震などによる災害対策の充実も課題となっております。

国は、人口減少社会の到来や東日本大震災の経験など社会情勢の変化を踏まえ、平成 25 年に厚生労働省が「新水道ビジョン」を、平成 26 年には国土交通省が「新下水道ビジョン」を、更に平成 29 年には「新下水道ビジョン加速戦略」を策定し、今後取り組むべき事項や方策等が示されています。

また、総務省からは、公営企業が健全かつ安定的に事業を継続するため、中長期的な基本計画である「経営戦略」を策定し、収支の見通しや対策を公表するよう要請されています。

さらに今国会に水道法改正案が提出され、その主な内容は、計画的整備から基盤強化への転換、広域化推進のため都道府県に広域連携協議会の設置、適切な資産管理の推進、施設の更新費用を水道料金に計上、水道台帳の整備、民間企業の参画、給水工事指定店制度への更新制導入などであります。

このほか最新の情報では、道路法改正案で、地下の上下水道管などの老朽化による道路陥没を防ぐため、事業者には維持管理を義務付け、違反した場合に道路管理者が必要な措置命令を出せる制度を新設するとのことでもあります。

これらに対応するため、当市ビジョンの計画期間が終了するに当たり、社会情勢の変化に対応し、効率的かつ安定的に持続可能な状態へと上下水道事業を再構築する観点から、課題を整理し、今後の取組の目指すべき方向性や方策を明確化することにより、事業運営の指針となるよう、平成 31 年度から 10 年間の計画期間として、新たな「江別市上下水道ビジョン」を策定しようとするものであります。

このビジョンは、水道事業・下水道事業が何を行ってきたのか、行っていくの

か、経緯と現状と将来の事業内容、収支見通しについて、皆様のご理解を得るための説明文書であると考えています。

したがって、できるだけ分かりやすい内容にするため、今後も内容の充実を目指して修正を加えてまいります。

流動的要素も多々ございまして、実際、この素案作成後、今年度の実際の収入が想定よりも多くなる見込みであるなど、情勢の変化がございます。

少なくとも平成 29 年度決算を踏まえ、30 年度の夏頃までに収支見通しを再整理した上で、素案から成案へと進展させていきたいと考えております。

いずれにいたしましても、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、内容の充実に努めてまいりますので、本日はよろしくお願い申し上げます。

3. 議事

(1) 次期上下水道ビジョン・経営戦略の素案概要について

委員長： ありがとうございます。

それでは、さっそくお手元の議事にしたがって進めてまいります。本日は今もお話がありましたけれども、上下水道ビジョンについての検討がメインかと思えます。では、さっそく次期上下水道ビジョン・経営戦略の素案概要について、事務局から説明願います。

総務課長： それでは、私から、江別市上下水道ビジョン・経営戦略素案の概要についてご説明いたします。

新しい上下水道ビジョンは、現ビジョンの計画期間が平成 30 年度で終了することから、国が示した「新水道ビジョン」、「新下水道ビジョン」の考え方を踏まえ、「第 6 次江別市総合計画」の基本構想や分野別の政策との整合性を図り、今後の上下水道事業の将来を見据えて策定するものです。

計画期間は、平成 31 年度から平成 40 年度までとし、「基本理念」「基本方針」「基本目標」を設定し、これを実現するための 10 年間の目指すべき方向性や実現方策を取りまとめました。

このビジョンは、今まで水道と下水道を個別に策定していたものを統合し、更に総務省が公営企業に策定を求めている「経営戦略」を盛り込み、上下水道事業の最上位計画として位置づけるものです。

なお、本日の資料はできあがったばかりの素案で、いわゆるたたき台の段階ですので、今後、追加・修正作業を繰り返し、精度を上げていく予定です。

また、年度の表記につきましては、2019 年 5 月から元号が変わるため、現段階では平成 31 年度以降は基本的に西暦をカッコ書きで併記しています。元号が決

まった段階で修正させていただきます。

それでは、資料表紙の裏面の目次をご覧ください。「江別市上下水道ビジョン」の構成は、第1章から第10章までで、第1章は「策定の趣旨と位置付け」、第2章は「事業の沿革」、第3章は「現状分析」、第4章は「上下水道事業の将来環境」、第5章は「今後の課題」、第6章は「目指すべき方向」、第7章は「実現方策」、第8章は「投資・財政計画」、第9章は「ビジョンの実現に向けて」、第10章は「参考資料」としています。

次に、各章の概要をご説明いたします。

基本的に、上下水道の共通事項、水道に関する事項、下水道に関する事項に分けて記載しております。

まず、1ページから2ページです。第1章「策定の趣旨と位置付け」です。策定の趣旨につきましては、先ほど管理者からご挨拶申し上げたとおりの内容となっております。

3ページから4ページは、第2章「事業の沿革」です。

水道事業は昭和31年の創設以来約60年、下水道事業は昭和39年の道営大麻団地造成を契機に事業を開始して以来、約50年の沿革の主なものを記載しています。

5ページから26ページは、第3章「現状分析」で、主なものをご説明いたします。

まず5ページの「水需要の動向」です。人口減少と1人当たり使用水量の減少により営業収益に直結する有収水量と有収汚水量は減少する傾向にあります。

次に6ページから8ページの「水道施設」は、耐震管の割合は低いものの、法定耐用年数を過ぎた管、経年管とありますが、この割合が低く、漏水の発生は全国的にみても少ない状態ですが、老朽化した管路は今後増加傾向にあります。

次に9ページから11ページの「下水道施設」です。法定耐用年数を過ぎた管路の老朽化状況を把握するため、テレビカメラなどによる調査を行っており、その結果をもとに適切な対応手法を検討し、延命化や更新を進めています。また、合流改善事業により改善目標は達成しておりますが、今後も雨天時放流水の継続的なモニタリングが必要です。

次に12ページから13ページの「水質」です。平成26年の断水災害のあと、取水ポンプ場など2箇所に原水濁度計を設置するなど、千歳川の濁りの監視強化を図っています。

また、平成25年度に作成した「江別市水安全計画」により、水源から給水栓に

至る総合的な水質管理を行っています。

浄化センターからの放流水は、法に基づく水質基準以下に管理し、公共用水域の水質保全に努めております。

次に 14 ページから 16 ページの「災害対策」です。施設の耐震診断、水道管路の耐震化、事業継続計画（BCP）や災害対応マニュアルの作成、緊急貯水槽や札幌市との緊急時連絡管の整備、給水タンク車や給水袋などの資機材の充実を図りました。

また、浸水対策としてバイパス管工事や貯留管のポンプの増強を行っていますが、ハード面だけでは限界があるため災害対応マニュアルの充実などソフト面の整備や災害対応体制の強化も必要です。

次に 17 ページから 18 ページの「環境対策」です。まず電気使用量の削減とし、機械を更新する際には高効率なものを導入するほか、浄水場では使用水量が少なくなる夜間にはポンプを停止し、高低差を利用した自然流下方式に切り替えるなど運転管理を工夫しています。

浄水汚泥は 100%融雪剤の原料として有効利用し、下水汚泥も肥料として 100%緑農地に還元しています。

また、下水処理過程で発生する消化ガスを発電や浄化センターの暖房に利用し、二酸化炭素排出削減と経費節減を図っています。

19 ページから 20 ページの「経営」です。これまで上下水道事業は、健全な経営を維持してきましたが、料金水準を表す料金回収率や経費回収率は低下傾向であり、今後も人口減少等により料金収入は長期的に見ると減少する一方、老朽化対策などの費用は増加することが見込まれるため、適切な料金設定について検討する必要があります。

21 ページの「お客さまサービス」です。水道メータの地上化による検針間隔の短縮、営業センターの民間委託、上下水道事業の各種情報を広報誌やホームページで提供してきました。

次に、22 ページから 26 ページの「前ビジョンの評価」は、水道事業の基本方針、下水道事業の取組方針ごとに評価をしております。

表のつくりとしましては、左から、項目名・策定当時の値・現況値・目標値・評価、となっており、数値の下には評価コメントを記載しています。

この評価は、平成 29 年度の数値が出た段階で現況値を置き換え、コメントも修正する予定です。

27 ページから 31 ページは、第 4 章「上下水道事業の将来環境」です。

まず 27 ページの「将来人口」は、江別市人口ビジョンでは、人口減少は今後も続き、25 年後の平成 55 年には 10 万人を下回る見込みです。

「水需要」は、人口減少・節水機器の普及など長期的に見ると減少傾向は続くと予測しており、水道料金・下水道使用料とも収入が減少する見込みです。

28 ページの「水道事業の状況」は、1 日最大給水量は将来的に現在の約 70% になる見込みで、各施設の利用効率が低下するため、施設を更新する際は水量の減少に合わせた適切な規模に見直す必要があります。

30 ページの「下水道事業の状況」は、1 日平均処理水量は将来的には減少する見込みで、各施設の利用効率が低下するため、施設を更新する際は水量の減少に合わせた適切な規模に見直す必要があります。

次に、31 ページの「職員数の減少と技術継承」です。職員数は民間への業務委託を進めたことからピーク時と比べ約 4 割減少しています。

さまざまな技術を必要とする上下水道事業を安定的に運営していくためには、業務量の変化に応じた適正な職員配置をするとともに、技術の継承と人材育成を進めていく必要があります。

次に、32 ページの第 5 章「今後の課題」です。現状分析と上下水道の将来環境を踏まえ、今後取り組むべき課題を整理いたしました。

まず上下水道共通の課題として、「他事業体との協力体制の強化」ほか合計 10 項目、水道事業の課題として、「水源水質の監視体制の確立と濁度上昇時の対策」ほか合計 8 項目、下水道事業の課題として、「浄化センターから排出される放流水の適正管理」ほか合計 4 項目をあげています。

33 ページから 34 ページの第 6 章「目指すべき方向」は、これらの課題に対応しながら、上下水道の機能を未来に引き継いでいくことが目指すべき将来像と考えており、第 6 次江別市総合計画の柱のひとつ「安心して暮らせるまち」の実現のため、本ビジョンの基本理念を「いつまでも暮らしに寄り添う上下水道」とします。

そして、この基本理念の実現に向け、基本方針を「安全」「強靱」「持続」とします。

34 ページは、3 つの基本方針に沿った基本目標を掲げ、この目標達成のための実現方策をそれぞれ記載した体系図です。

35 ページから 39 ページの第 7 章「実現方策」は、目標達成のための実現方策の

考え方を項目ごとに記載しています。

続きまして、40 ページから 52 ページの第 8 章「投資・財政計画」は、まず水道事業ですが、投資シミュレーションの結果、計画期間の 10 年間で必要な更新事業費は、年平均約 10 億 8 千 9 百万円となり、財源としては国庫補助金や一般会計からの出資金、企業債、内部留保資金で賄います。

収支見通しは、水需要の減少により給水収益が減少していくため、平成 40 年度には赤字となり、計画期間終盤には料金改定の検討をする必要があります。

41 ページから 44 ページは収益的収支と資本的収支の見通し、45 ページは設備投資計画となっております。

次に 46 ページの下水道事業ですが、投資シミュレーションの結果、計画期間の 10 年間で必要な更新事業費は、年平均約 8 億 9 百万円となり、財源としましては国庫補助金や企業債、内部留保資金で賄います。

収支見通しは、処理水量の減少により下水道使用料が減少していくため、計画期間中頃には経営に必要な資金が不足する見込みのため、今後は使用料改定など財源確保の策を講じる必要があります。

47 ページから 50 ページは収益的収支と資本的収支の見通し、51 ページから 52 ページは設備投資計画となっております。

53 ページの第 9 章「ビジョンの実現に向けて」は、PDCA サイクルによる進行管理を行い、必要に応じて見直しすることとしています。

54 ページからの第 10 章「参考資料」は、用語の説明、本ビジョンの策定経過、市民アンケート調査結果の抜粋としています。なお、用語の説明につきましては、現在調整中でございます。

最後に今後のスケジュールですが、2 月中旬に市議会の経済建設常任委員会で素案の概要について説明、4 月下旬に平成 29 年度決算を反映させ内容を見直し、9 月にパブリックコメントを実施、来年 3 月に公表することとしています。

この間適宜、運営検討委員の皆様にご報告しご意見をいただき、修正を加えながら進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

以上です。

委員長： ありがとうございます。

ただいま説明のあった、次期上下水道ビジョン・経営戦略の素案概要について、ご意見等いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

宮前委員： 気が付いたところを述べさせていただきます。

まずは、どのページということではないのですが、今のビジョン、これでいう

と前ビジョンの評価ということで22ページから26ページまでに目標値を掲げて達成率を出していますが、今回新しく作るビジョンの中では、こういう目標設定はしないのか、したらいいと思うので、その辺はどう考えているのかを教えてくださいたいと思います。

それから3ページですが、水道の拡張の状況を、数字などもう少し見て分かりやすいように、例えば創設のところには給水人口と日最大水量が書いていますが、拡張のところにも書いていただけると、拡張した結果いくらになりましたというのがわかれば、規模感がわかっていいのかなという感じがします。

それから5ページですが、水道の普及率の推移なども分かれば、どのように普及していったのか分かっていいと思います。ただ昭和58年くらいにはほとんど90%近くになっているのでしょうか。普及率の推移などがあると参考になるのかなと思います。

それから6ページのところで水道施設の概要ですけれども、浄水場のところが随分ざらっとしているのですが、上江別浄水場の日最大給水量や処理能力なども載せておいたほうが、見る人が見れば、水源から取った水の量を処理出来る能力があるというのはわかるのですが、一応書いておいたほうが市民の皆様は見て分かりやすいのではないかなという気がします。

それから8ページの現状分析のまとめのところですが、配水池と配水管しか書いていないので、水源と浄水場のことも書いたらいいのではないかと思います。例えば水源ならこれまで確保してきた水量で十分足りていますということになるとは思いますが、水源は江別市的には多々あるというのがわかっていいのではないかと、浄水場も躯体関係はまだまだ使えるということですが、中の機械設備は整備更新をしていかなければならないということも、現状分析としてあっていいのではないかと思います。

あと34ページの強靱の中で『地震対策』、『危機管理体制の強化』、『浸水対策の推進』とありますが、もう少し、前の大雨災害のことを意識した記述が少しあってもいいのかなと感じがします。市民の方のアンケートを見ても災害に強いことを望んでいる方が多くなっていて、この災害というのはおそらく大雨災害ということも頭にあるのではないかと思いますので、大雨があつて大災害があつたわけですから、大雨災害か豪雨災害か、地震もちろん大事なのですが、そういう観点ももう少しあってもいいのではないかなと思います。書き方など見せ方の問題になると思います。あちこちにちりばめて高濁対策などが書いてあり、内容的には網羅されていると思いますので。あともう1つ大雨災害ということで考えた時に、市内の連絡管はあるのですが、配水池同士での水の相互融通みたいなことが検討できないのかなと。なかなか高低差があつて難しいとは思いますが、検討できるといいなと思います。

最後に44ページで、少し細かいのですが、まとめの2つ目に、水道管の管路更新率は1.0%です、とこれしか書かれていないのですが、これをもう少し向上させていくような努力というか、姿勢が見られてもいいのではないかと感じます。以上になります。

水道部次長： ご質問等ありがとうございます。

まずは22ページの、前ビジョンの評価を踏まえて、新しいビジョンで目標設定はしないのかというご質問ですが、まず前ビジョンを評価した上で、継続した形で新しいビジョンにも入れていきたいと考えておりました、内容については精査をして載せる予定です。中には終わったものもございますので、その辺も見極めながら、どのような項目が良いのかを含めて現在検討をしています。

ビジョンの考え方については、先ほど管理者が申し上げましたとおり、ご利用者様に対する説明文と言いますか、上下水道を知っていただきたいという目的で作成したものでございますので、ご指摘のとおり、少しでも分かりやすくということで、進めていきたいと思っております。議会の経済建設常任委員会での報告がございますので、今後どの時点で形にできるか、スケジュール的な問題はございますけれども、そのような方向で進めさせていただきたいと考えております。

委員長： 他に何かありませんか。(なし)

私もいくつかあります。宮前委員と重なる部分もあると思うのですが、前ビジョンについての評価が、達成率という形で表にまとめられているのですが、全体としての総括みたいなものがあつたほうが良いと思っております。前ビジョンが手元にないのでどうだったかはわからないのですが、前ビジョンで目指すところがあつて、各項目ではこうだったというのはもちろん良いのですが、それでどのようにお考えなのか。十分に達成していたと考えられるのか、それとも10年前に想定していないことがあつてなかなか難しくなっているということになるのか、それとも非常にうまくいっているということになるのか。今回のビジョンも、全体として何をめざすか、10年後どうあるべきかというの、もう少し踏み込んだ内容があるといいなと思っております。予測出来ないこともあると思うのですか、現状想定されている状況で、10年後どうありたいか、そんな内容があるといいなというのが1つ私の印象です。

それともう1つは、料金のことについていくらか触れられているのですが、どうしても上げざるを得ない状況がきっとあるのだろうと思うのですが、そこは市民の皆様のご理解を得ないといけないと思っております。1番最後のアンケート結果のように、料金を上げたくないというのが当然市民感情だと思いますが、ただアンケートの出し方として、こういうアンケートにしてしまうと絶対こういう回答が出るなと思っております。上げないように出来るならしてくれと。ただ実際の行政の方、あるいは専門分野の方からすると厳しい状況や危機感があるので上げざるを得ない

だろうという考えがあるわけですが、ではどうして上げたいと考えているか、上げないと考えているのかについては、このビジョンだとわからない、伝わらないと思います。あまり危機感をあおる形にしてはいけないと思いますが、どんなことが想定されて、どんなことが起こりうるから上げた方が良いのではないかということが、このビジョンの中にはあまりないと思います。なかなかそういうのは受け入れられないと思うのですが、あまりこの問題を先送りにはいけないと思っていて、先ほどの宮前委員の話にもありましたが、更新率が1.0%で1000年かかって全部完了するとなると、100年間ずっと同じものがあるということが前提での話になりますから、むしろ市民の理解を得られないと思います。100年後のことまで今決めてしまっているのかと。ですので、危機感、何が起こりうるかということについて触れてもいいのではないかと思います。このまま騙し騙し今の上下水道を使い続けていて何が起こりうるのか、何かが起こったときにそれを回避するために、料金を上げたらこんなことが出来ますなどといった内容がビジョンにあると、そしてそれを読んでいただいた上でアンケートなどをしていただくと違った結果が出ると私は期待したいのですが、いかがでしょうか？

水道部次長： 前ビジョンの総括としては、概ね達成しているものと考えております。その記載はございませんので、記載していくようなことで進めていきたいと思えます。現状の達成項目については、1部△で達成できない見込みのものもございませぬけれども、これについては継続して、達成する努力をしていかなければならないと考えています。

料金の話ですが、『第8章 投資・財政計画』につきましては、今後の余剰予測や設備の更新計画などを予測した、中長期的なあくまでも経営の見通しという位置付けでございます。料金については、いつ、どのくらい上がるかというお示しが出来ないような状況にあり、実際には各年度の決算を見ながら経営状況を判断して、すみやかに変えていくというような手順を踏むこととなりますので、料金についてはこのような形の記載で進めさせていただきたいと思えます。ただ下水道ですと、50ページの資本的収支のまとめ3つ目に、「資金残高は10億円程度の保有が望ましい」と記載しています。委員長がおっしゃった何かあったときに対応できる担保として、10億円程度を運転資金として現金で持っておきたいというのが、このビジョンの考え方でございます。それを踏まえまして検討させていただきたいと思えます。

水道事業管理者： 私の方から少し補足をさせていただきます。委員長からのお話は、料金を上げることについての危機感と言いますか、もし上げなければどんなことが起きるかきちんと説明をすべきだというご主旨だと受け取りましたので、そのように対応させていただきます。

委員長： いろいろなことがあると思うんです。先ほどの冒頭のお話にもありました道路

の陥没の話など、一般の方々はそのような意識がないと思うんです。そんな所が関係しているとは。あんなことがそこかしこで起こるかもしれないです。

水道事業管理者： 私もここに来るまでは水道、下水道のことについてはよくわかりませんでした。来た途端に管が外れて大規模な漏水が実際に起きましたし、率直に言いますと、毎年あちこちで規模の大小はありますが漏水事故が起きています。それから、陥没についても発生しています。江別は管が新しいこともあって少ない方だと思います。しかし、そう言ったことを毎々お知らせをしていないものですから、市民の皆様が、適切に更新を進めていかないと何が起きるのかについて十分に理解を得られるような情報提供をして来なかったと思います。そう言った意味で、委員長からご指摘があったことを踏まえまして、適切に更新をしないと何が起きるのかについて、きちんと説明を加えさせていただきます。

委員長： 水道、下水道があるのが当たり前になっているところがあって、ひねれば水が出で来るし、流せばトイレは流れていくし、ただ無くなったらこれほど困ることはなくて、そういう意味で日本全国水が安すぎると思います。これだけ重要なのにこれだけの値段で使い続けていっていいものなのかという思いはあります。だからたくさん上げろということではなく、もう少し我々が得ている便益に見合うだけの料金を払うように動いていかなければいけないと思います。ずっと値上げしていないからこのまま値上げしないで頑張りたいというのは、もちろんそれが出来れば素晴らしいのですが、色々なところに歪みが出てきていると思います。一番言いづらいことだと思うので、やり方はなかなか難しいと思いますが、何か良い仕掛けなどを考えていただきたいと思います。

石川委員： 今の関連ですが、いざ水道料金を値上げせざるを得ないと判断された時に、事務手続きとしてはどのように進んでいくのかというのが1つと、いざ上げるとなった時に“何%上げます”という提示になると思いますが、その時に市民との関係で、どういう説明の仕方で、どのような対応の場があるのかということをお聞きしたいです。

総務課参事： 住民との関わりですが、手順としましては、まず、料金改定の検討の発議をします。その後審議会的なものを設けてその場で内容を審議し、それが終わったら議会に説明します。その間にパブリックコメントや市民説明会を開催し、最終的に条例改正案を議会に提出しまして、可決されたら新しい料金が決まる流れになっています。

石川委員： なぜお聞きしたかということ、当事者の方としては、まもなく水道料金を値上げせざるを得ないという判断が頭の中にあるのだと思います。今の江別市の状況を考えてみますと、市の庁舎を含めて、どう考えてもそんなにもたないなと素人目で考えます。要は、市の庁舎を含めて建て替えという問題が大きな問題として出て来るのではないかという気がしています。そうした時に「水道料金を上げま

す」という問題と「庁舎を建て替えなければいけない」という問題は、市の負担としては極めて大きな問題になると思います。その辺は、事前に市との調整を早めていかないと、ちょっと水道料金上げるのを待ってくれと、いけるという判断ならば別だが、そうでもないようなことで考えられているような気がします。したがって、事前に市と先行的に話をし、スムーズに料金の値上げが出来るような体制になるよう、市全体として、まずは理解することが大事ではないかと考えます。

水道事業管理者： 市全体の財源としてということで、私からご説明させていただきます。

少しおおざっぱかもしれませんが、上水道は、どちらかと言うと水道料金でほとんど賄われる仕組みになっております。繰り出しや補助金も受けていますが、大半が料金です。下水道は、歴史的にも現状を見ても、国からの交付金や市からの繰り出しの割合が大きく、その中で動いています。もちろん下水道使用料などもいただいておりますが、下水道使用料よりも水道料金の収入の方が遥かに大きい状態で今は動いているというのが1つです。そういう状況ですので、独立採算の原則自体は両方共通しておりますので、水道料金の値上げを抑制するために、繰り出し金を増やして一般会計から水道を助けるというような政策判断があるかないかと言えば、それはその時の首長によって起こりうることだと考えます。ただ、水道については、ここに記載している通り10年先、下水道は概ね4～5年先まで資金不足は大丈夫という状況ですから、現時点で繰り出し協議をすることは出来ないと思います。但し、こういった経営状況であるということは市長、副市長はもとより、総務部長以下財政当局にも説明した上で本日を迎えております。料金を上げないで済めば、もちろん一番良いのですが、委員長からもご指摘があったとおり、人口が減っていくのに、いつまでも持つというのは無理ですので、どこかでは決断する日がやってきて、そしてその時点で繰り出しも含めてどこまで抑制できるのかという判断が加わっていくのかなと思います。繰り出しについては、一応ルールがございまして、そのルール分はきちんといただいております。

委員長： お話を伺って1つ思い付いたというか、気になったのですが、前ビジョンでは財政のことはどういう見込みになっていたのですか？10年経ったこの時点です。

水道事業管理者： ずっと議会に対してもお問い合わせに対しても、この30年度までは料金改定の必要はございませんということを書いてきました。

委員長： するつもりはないということで、それは達成したということですか？

水道事業管理者： それは達成します。今現在の下水道では11億の運転資金を持っていますし、水道も9億持っていますから、全然問題はございません。ですけれども何年かのうちにはどうしても底をついてしまう、黒字決算を続けても運転資金がなくなるということなので、一般会計からの繰り出しが適正であれば料金を改定せざるを得ないということになります。蛇足になりますが、去年の3月に国土交通

省から下水道使用料についての算定ルールが久しぶりに示されました。そして水道については、元から水道料金算定要領というのが示されています。ですから、一定のルールの基に見直しをするということになります。但し、激変緩和という問題もありますから、ルールが変わったからといっていきなり全部変えられるかと言ったら体系変更の難しさということになります。いかに料金を低減するかというのが1番難しい部分になります。特に水道料金の場合は、口径別や用途別だったりするものですから、誤解を恐れずはっきり言いますと家庭用は思いっきり抑制した料金になっています。ですから今、算定要領どおりにやりますと、ものすごく大きな値上げになるので、それはたぶん受け入れられないと思います。激変緩和も考えながらどうするか、料金体系の検討にもかなり時間がかかると思います。もしかしたら、複数案を示してご意見をいただくという手続きを踏んでいくかもしれません。そうしている市もいくつかあったと思います。どんなやり方が良いのかだと思いますが、少なくとも足掛け3年くらいは掛かるかなと思います。今年言って来年というのは到底無理だと考えています。昭和58年が水道料金最後の改定、59年が下水道料金最後の改定で、そうすると少なくとも40年以上値上げ改定を見たことのない市民の皆様にご提案ということなので、他の都市以上に他の町以上に気を遣わないといけないと現時点から考えております。

委員長： 資金残高を見ればよいのかわからないですが、前ビジョンからあった内容だと思うのですが、それは10年前の見込みに比べると、今は見込みどおり残っているのですか？

水道事業管理者： 国の総務省が収支計画とそれに対する対策を示せと言ったのは最近になってのことで、32年度までにはやりなさいということで、前ビジョンでは経営戦略が組み合わされていないんです。

委員長： ではこの関連の記載は前ビジョンにはない？

水道事業管理者： そこまで言及していません。その代わり財政計画と言うことで、3、4年ずれてはいますが、大まかに申し上げますと5年程度の財政計画を立てて、この10年サイクルのビジョンとは別のサイクルで対外的に示してきました。概ね資金残高という意味では、予定を大きく違えたということではなくて、はっきり言って順調にここまで来ました。

委員長： 大変喜ばしいことです。

どうもありがとうございます。他に何かございませんか。

蛭名委員： 前回の会議の時に、アンケートを実施するというので、委員長からも料金改定に踏み込んだようなアンケートの仕方というか、そういう様なご意見があったように記憶しています。このアンケートというのは何年ごとにされているのでしょうか。私のところにもたまたま主人の名前でアンケートが届きました。そしてアンケートの内容も見せていただきましたけれど、どういう形のアンケートを

されるのか、アンケートのひな型みたいなものを前回の委員会で委員にも提示していただいた方が良かったと思います。10年前と同じ内容で繰り返し行われているのであれば、そろそろ色々な状況が変わっているので、アンケートの内容をもう少し踏み込んだ形にした方が良かったのではないかと考えていたので、その辺についてお伺いしたい。専門的な方の見方によれば、もう少し聞き方やアンケートの取り方も違っていただ方がいいのではないかという意見があるかもしれないので、今後そういう時には、その辺も参考にしていかがでしょうか。せっかく集まって知恵を出し合おうとしている中ですので、皆さんはもちろんプロフェッショナルでしょうけど、また違う立場のご意見も参考にされた方が良いと思います。

それと、私もはっきりしたことは覚えてはいないのですが、消費税が先送り先送りになっていますが、あと2%程度、あと1年か1年半後に上げられる見通しもあると思うのですが、その時に水道料金はその分はどうするおつもりなのか疑問に思っています。

あと、44ページのまとめの2つ目、先ほども話題に上がっていましたが、管の更新率は1%で100年かかりますって書いてはありますが、100年かかったら最初にやったところはきっとだめになっているのかなと想像します。これは具体的に書いていただいたということなのか、財源が不足しますよということについても、もう少し市民の方が見て分かり易く、“やっぱりそうだよ”と共感を得られるように、財政の面など、市民の方にも見て理解してほしいと思うので、その辺に着目をして、今後値上げが必要になった時に市民が共感できるような工夫をされた方が良いなと思いました。

総務課長： まずはアンケートですが、先ほど管理者からもありました財政計画を作る前にアンケートを行ってまして、前は平成25年度、そしてその前が平成18年度に行っております。今回は経営戦略ということで、このようなアンケートを取らせていただきましたが、前回前々回と比較をしたいということで、あまり項目を変えない部分と、近年災害と言いますかその辺が多発していますので、それを意識したようなものを付け加えたりはしたのですが、基本的には大きく変えてはいない状況です。次にどの段階でアンケートを実施するかは決めてはいないのですが、これからどうしていくか、どのような内容が良いのかまた検討して、皆さんのご意見を聞きながら考えていきたいと思っております。

それから消費税のことなのですが、平成31年の10月から税の値上げという見込みですが、水道料金、下水道使用料金につきましては、そのまま2%を上乗せするという方向で考えています。そう言いますのも総務省の方でいろいろと考え方を出してまして、水道、下水道については転嫁するものということで示されていますので、それに乗っ取って江別市でもやっていきたいと考えております。

水道整備課長： 管の更新率についてですが、少しわかりにくい表現になってはいますが、

この1%と言うのは平成27年度の更新率になっていまして、全体の延長に対する更新した延長の割合です。更新した管が大きければ大きいほど費用がかかります。そうすると延長が伸びないということになりまして、更新率も低くなってしまふことになります。最近は口径の大きい管路を計画的に更新していますので、どうしても見た目1%でわかりにくいのですが、率が伸びない状況です。もう少し表現を変えて、分かりやすい記載の仕方を検討したいと思います。

委員長： 先ほど申し上げたことに関連するのですが、これは考え方で、1%で単純計算で100年かかっても更新するという考え方もあると思います。ただ、それでよいかという問いかけみたいなのがあって良いと思います。「江別はそれでやっていくことにしますけれども、それでいいですか」、それがアンケートという形になるか、ビジョンの中の文言になるのかはわかりませんが、別に水道管の更新全部ということではないですが、色々な所に、こういうところに問題意識を持ってもらいたいという箇所がたくさんあると思います。そこを我々の立場からすると勝手なことを言いますから、早くこうしたらいいのではないかとか言うのですが、もちろん合意がないといけないことなので、それは行政サイドもそうですし、掛かるコストの負担を市民がするかという所は勝手に決められないことですから。ただ問いかけがもっとあっても良いと思います。「皆様が合意してくだされば、こんなことができるのだけれど、やりますか？」それがなくなっていて、少し投げかけてみても良いのではないかと私は思います。いろんな所でいろんなオプションがありますので、そこを江別はやってみませんか、ということをやっていたら、皆さんの仕事もやりがいがあると思います。勝手なことを申し上げました。コメントみたいなものですのでお答えいただかなくて結構です。

佐藤委員： これは10年ビジョンということですので、例えば需要減の対応策としては、総務省と厚生労働省では、方法論として、近隣市町村との広域連携も考えてみなさいと、もう1つは浄水場や水道管などの施設を市町村が所有し、管理や運営を民間委託しなさいだとか言われていますが、実際道内では地域が広域になるわけですから、なかなか現時点で官民連携を検討しているところは少ないと思いますし、道の総合政策の方では、水道に必要な薬品の共同購入など、そういった所から広めていくのも手はあるよねというふうに示しています。ですから、江別単独で将来10年間考えていきますということのみならず、政府や道の要請や施策の可能性について、可能であれば国が提案しているこういったものも検討を視野に入れるという文言が、10年先のビジョンですからあってもいいのかなというふうに思います。それと現状、この10年ビジョンとは違いますが、道内の12市町村ではもう実際に値上げをしている及び審議中でございます。釧路市におきましては、2018年の4月議会で決定をしております、値上げするということを示されています。釧路市は値上げ率は、住宅用の平均が19.5%、標準的な

家庭で1か月20t使用した場合は現行よりも643円高い月額3,868円と、もう12町村が実際に値上げをしているという現状でございます。それに比べて江別の上下水道は、布設からだいぶ経過しておりますが、江別水道は補修を頑張ってきたからこそ、まだ10年先までという実情がございます。これは企業債が少ないからだと思えます。そういった事情、頑張ってきた背景があるから、江別市はこの先10年の問題になっているよといったアプローチも市民に示していかないと、やはり値上げというのは非常に大きなものです。今までそれこそ40年眠っていたことがいきなり値上げから入ってしまいますと、市民は「いやだ」ってなります。実際これは昨年12月29日の北海道新聞で、水道料金の値上げを巡る道内自治体の動きということで、わかっているには良い題材の記事だったと思うのですが、こういった所も、今は道内においてはこういう環境にあると、江別市においても、という様な丁寧な説明を市民にしっかりとしていく必要があるのではないかと思いますので、お伝えしたいと思いました。

五十嵐委員： 料金のことばかりで恐縮だと思いますが、今佐藤委員がおっしゃられたように、道新の記事なんかも見えて、全道的に江別市が抱えている問題、老朽化しているのを直していかないといけないからお金がかかりますよ、だけでも節水型の機器の普及、人口減で収入が減っていますよと、財源が破綻というか、破綻ではないですけども、要するにマイナスになりつつあります。だから何かしなければいけないというのが、江別市もそうだと思いますし、全道的にもそういう様なことを抱えている、そこをまた市民の方に理解してもらうのは難しいと思います。これはアンケートなので、どういう背景でどういう風なことを思って回答したかはわかりませんが、水道料金については「現在の金額を極力維持してほしい」というのが25年も29年も1番です。しかしながら水道事業に期待することは何ですか？ということに関しては「安心して飲める水道水の供給」と「災害にも強い水道施設の建設」となっています。ここでたぶん市民の方が理解をしていないとは言わないが、安心して飲める水道水の供給をしたり、災害にも強い水道施設の建設、つまり老朽化したものを直していくというのもその1つだと思うのですが、それをするには絶対にお金がかかりますよね。タダで直したり、お願いをすれば直るわけではないですから。そしてお願いをすれば安心して飲める水道水が供給させるわけではない。だからここに若干の矛盾が生じているのかと。料金はあげないでほしいけど、おいしい水と強固な施設はほしいというのは矛盾だと思います。圧倒的にここが矛盾をしています。そこを皆さんたちが期待をされていること、これをするには、現在の料金を極力維持となっているので、絶対上げるなどはなっていないのでなんとも言えないところかもしれないですが、でもそこにはお金がかかりますよと。下水の方も「極力維持してほしい」が圧倒的で、けれども期待することについては「災害にも強い下水道施設の建設」で、

2番目は「汚水処理による河川水質改善など環境への配慮」です。それらをやってくるとやはりお金がかかりますよというところが、しごく当たり前のことなので、皆さんが言われている所ですけれども、それらを含めて、皆さんのご期待に沿うためには料金を上げていくという施策や判断が必要になってくる。ただ先ほども話があったように、消費税が上がった時以外40年手を付けていないものについて、確かに釧路市のように1か月だいたい650円くらい上がりますという様な話になった時に、40年間も上げていなくていきなりここで650円、江別市がいくらになるかはわかりませんが、単純に400円上がったとした時、1年間に10円ずつ上げていけば良かったのではないかと思う方もいらっしゃるかと思います。そこは、その時に上げる理由はなかったもので、要は施設も老朽化していないしという所は丁寧な説明が必要だと思います。単純に考えると40年間手を付けていない、ではいつ上げるかは別にして値上げをするときに400円くらい上がってしまいますよとなったら、そういう考えが生まれてもおかしくはないと思うので、そこはその時に上げるときに合理的な理由がない、合理的な理由がないと行政は動けないということもしっかりと示してやっていかないと、パブリックコメントを出した時も、変なとかおかしい話になりかねないということが懸念されるので、そこは気を付けてやっていただきたいかなと思います。

水道部次長： 委員よりご指摘があったように、私たちは上下水道施設がございまして、市民のライフラインを守るという事では、将来に渡ってこの施設を持続可能なものにしなければならないというふうに考えておりますし、それが私たちの1つの大きな使命だと考えておりますので、その一環として耐震化を含めた地震対策や断水対応にかかる資器材の準備、災害訓練なども含めてそれに備えなければならないと思っております。そのためには将来を見据えた財政計画なども見たうえで、必要な場合には料金改正なども検討しないといけないと考えておりますので、それらを踏まえまして検討させていただきたいと考えております。

それと、先ほどの広域化に関する検討の件ですが、39ページの(3)「老朽化施設の整備」のイの「浄水場更新に向けた検討」の中で、「長期的な広域化等の可能性も検討していきます」と記載しております。将来の施設の更新を踏まえまして、あらゆる手段を検討する必要があると考えており、その1つとして、この広域化に関して検討していかないといけないと考えています。現在も、広域化については、勉強会を開きながらどのような形が良いのか検討しているところがございますので、引き続き行っていきたいと考えております。

委員長： 他に何かありませんか。

塩越委員： このアンケートで、経営を極力維持してほしいと出ていますが、このアンケートに答えた方はどの年代が多かったのかなと気になりました。特に江別の場合には退職者が多いとか、年金生活者が多いという状況がありますと、先ほどにも

ありましたが、消費税は上がる、年金は下がるとかそういう様な中で、値上げというものに関して極めて敏感になっているような状況があるかと思えます。そういうところで、しばらく上げていなかったのという事で理解してほしいという言い方で行ってもなかなか難しいかなと。そういう所も感じたので、出来るだけ、ここでお話があったように、こういうものが基本的には最低必要なのだが、それを維持するためにはこういうものが必要で、それをやっていくとどうしてもお金が足りなくなるとか、そのために値上げをさせてほしいとか、値上げするにしても、他市町村に比べてもどのくらいの最低抑えた値幅にしているというところなども気を遣ってご説明いただいた方が、説得力があるのかなと思ひ伺ってみました。そこら辺よろしくお願ひしたいと思ひます。

総務課長： アンケートの年代別の回答割合ですが、1番多かったのは60代で、その次に70代、50代となっていて、極力維持してほしいと回答した割合を年代別で見ますと、やはり70代、80代の方が70%以上、他の年代も60%以上いらっしゃるのですが、特に70代80代の方は極力維持してほしいと回答した割合が高いという状況です。

塩越委員： 有職者と年金生活者でどういう意識なのか、そこが気になったものですから。

水道事業管理者： 後段ございました、丁寧な料金改定の説明ということについて、私が現時点での考えを述べさせていただきたいと思ひます。先ほども少し触れさせていただいたように、やはり十分な事前の説明と言ひますか、今年言ひて来年可決と、来年上げるのは到底無理だと考へております。どこの市とは言ひませんけども、同じ石狩管内の市では足掛け3年という様な感じで、夏にありましたら丸々1年経てその次に議案が出るというような動きをした市は現にございます。私としては現時点ではやはりそのくらいの時間をかけないと、なかなかご理解をいただくのは難しいのではないかなと。ただ素案の素案でこういった書き方をしてありますが、果たしてどこら辺で現金が足りなくなるのかと言ひるのは、冒頭申し上げたとおり、最低でも29年度決算をちゃんと踏まえた上でこの辺りかなという数字で正式な公表をしていきたいと思ひています。今日の段階ではそこまで正式な数字を取りえないので、何とも言えないというのが1つ大きくあります。それと古い話になってしまひて申し訳ないのですが、その足りない現金を一体何年かけて元に戻すのかということや、足りないとわかっているなら予めやればいじやないかという議論は当然あると思ひます。ただ我々としては、公債費がどういふ風になっていくとか、あるいは今話しているのはもっぱら下水ですが、一般会計からの繰り出しで少し緩和していただけるのだとか、いろんな要素を総合してみませんと、一体いつどの程度上げるのかということについては、現時点では雲を掴むような状態に近いです。ですから我々自身も、これからどのような方向でご理解いただくのかということの具体化に少し時間をかけないと

思います。率直に言って40年、仮に5年後とすれば40年経過しているわけで、当時の経験者は誰一人おりません。そういったこともありまして、ノウハウの蓄積もしなくてはならないと考えています。

委員長： その他ありますか。

古川委員： 31ページの「職員数の減少と技術継承」という項目の下の所に、「将来の上下水道事業のあるべき姿を考えることのできる人材の育成を進めていくことが重要です」と書かれていますが、本当にこれは大事なことだと思います。やはり職員数が減るということは、それだけ上下水道事業のお仕事が減るわけではなくて、残された方に対しての仕事量の負担感も大きくなってきますし、それから、技術を持った方が退職された後に若い方がそれを受け継いでいくために伝えられているのかなと心配になっていくのだと思います。水道事業に関してこのお仕事が大事で、非常に市民生活に欠くことができない事業で、そういうことに関わることが仕事をしている人たちのポテンシャルを上げていくんだということを、もっともっと一般市民が分かって応援してあげないといけないと思います。そういう意味でも、この水道事業のPR、値上げのこともそうなのですが、市民に向けて折に触れて広報をしていく、それから市の職員の人たちも、水道事業に対してもっともっと目を向けていく気運を盛り上げるように、市民が応援してあげていかないといけないのかなとつくづく思いましたので、そういう点ではPRのことについても、これからどんどん折に触れて小学生、中学生でも良いですし、何かの市民団体にもPRしていただけると、話し合う機会があると分かっていたのではないかなと思いますので、そういう点で頑張っていただきたいと思います。

委員長： 今のご意見を伺っていて思ったのは、料金がずっと上がっていなかったということは素晴らしいことなのですが、悪い側面もあったなと思います。変わらなかったのも。もしも定期的に料金が上がっていたら市民の目があったと思います、“料金上げたんだろ、その分何が変わったんだ”という、そういうフィードバックがきつとあったと思います。ずっと無かったままで来ていますから、同じであればいいやということ。

その市民の参加意識みたいなものというのは、そういう意味ではズレる方向に働いてしまったなと感じました。ビジョンですから乱暴な事を申し上げますが、先ほどから料金のことがあるのですが、例えば先ほどの釧路で約2割上がるという話がありましたが、仮に江別で2割上げたとしたら何が出来るのかというのがビジョンなのかなと思うのです。2割上げたとして、「水道料金収入が2割増えたら、江別市はこんなことができますよ」と。やるというわけではなくて、いろいろなオプションがあると思います。2割増えたら浄水場のことをやっていただけなのか、下水管の更新なのかはわかりませんが、これは現実的なオプションとしてあると思います。釧路で2割ですから。「それがあつたら江別市ではこんな事

が出来ますけども、皆さん5年後10年後どうされますか」という内容がビジョンにあると、市民の方々も目を向けてくれるかなと考えました。それをやってくださいということではないですが、私は非常に興味があります。もし2割上がったら、江別市みたいに2割上げなくてもなんとかやっているところは、フリーハズで2割増えた時に一体何を考えてくれるのかなと期待がすごくあって、私は専門が水道系だということもありますが、そうでない方にも関心をもっていただけではないでしょうか。何かそういう仕掛けがあっても良いなと思いますし、ビジョンの中に是非入れていただけたら良いなと考えました。

水道部次長： 市民に対するPRはもちろん重要なことですし、自分たちがどういうことをやっているか、どういう苦勞をしているのかをお示しすることは非常に重要だと思っておりますので、それについては今後も検討をしていきたいと思っております。今委員長がおっしゃるように、2割上げたらどのくらい出来るということにつきましても、具体的に数字をあげてしまいますと、それが一人歩きと言いますか、そういうことになってしまいますので、その辺の対応については慎重にしていかなければならないなと考えております。

基本的に今回のビジョンにつきましても、何かをするために料金を上げるということではなくて、現状を踏まえて、将来こうありたいという、その実現に向けて方向性を示したということであり、その中には耐震化等も含まれておりますが、財源等を考えると大変厳しい状況にあるということがございますので、それについては、内部で検討させていただきたいと思っております。

委員長： ビジョンという言葉は非常に意味が広いので、おっしゃったことももちろんビジョンの中に入ると思うのですが、江別市さんだけではなくて他の所も全部そうで、抗いがたい状況というのはいろいろあると思います。人口減や予算などもそうですけれども、こうなりそうだということは、かなり高い精度でビジョンに示されていると思います。だからどうしたいのかというのが私の中で考えるビジョンなのですが、そこはバランスがあると思います。もちろん難しい状況だというのは分かってはいますが、その中で、それでも出来るだけこういう方向に持っていきたいという何かがあると、私は江別に住んでいるわけではないですが、江別市民であれば、「じゃあ協力しようかな」という気持ちが生まれてくることを期待したいなという思いがありまして、先ほどの様なことを申し上げました。

水道部次長： 第7章でございます、実現方策というのは水道部が将来目指す方向性ということでお示ししているところでございます。その中に『安心』『強靱』『持続』という項目を挙げまして、それぞれ目指すところを示しております。この中に、耐震化ですとか、資源の有効活用ですとか、民間業者の活用ですとか、目指すべき方向として示しているところでございますので、ご理解いただければと思います。

水道部長： いろいろな意見を出していただいて誠にありがとうございます。「私たちが10年の間に目指している、いろいろなこと」について、まだ素案の段階なのでご指摘いただいたとおり過不足がたくさんあるのですが、その中でこういう話を出していただいて、こういうやりとりをさせていただいたように、このビジョンを通じてもっと広く一般の方と話をできるような糸口にしたいというのが、私がこのビジョンを更新する時に思ったことの1つなんです。もう1つは、今回のビジョンはワーキンググループを中心に作っていますが、私が最初職員全員に話したのは、職員一人ひとりが、このビジョンについて30分話してくれ、1時間話してくれと言われたら、それぞれ専門は違っても誰もが話ができるようにしたいということで、そういうのを今でも目指しています。今後は、こういう場でご説明させていただきただけではなくて、今まで部分的にしか関与をしていない職員にもこれを渡して説明をして、職員が一丸となって進めていくことを目標の1つにしています。それと言うのも、先ほど古川委員がおっしゃったように、実は私も技術継承と人材育成についてずっと考えているんですけども、私たちが持っている上下水道の範囲は非常に広いです。水処理、建設、料金、管の維持管理、水質など、正直言って普通の担当をしている技術系の部よりも、広い範囲のことを私たちはやっています。その広い範囲のことをやる人数ですが、私が役所に入った頃は100人弱くらいだったと思います。それだけの人数でいろいろな仕事をしてきました。私が入った頃は人口は7万を切っていて、どんどん増えていきました。人口が増えていった中でいろいろな仕事が増える、その増えた中でそれをまた1つの勉強材料として、みんな実践をもとに育っていきました。拡大の時代でした。それが何年か前から拡大ではなくて、今あるものを作り変える再構築の時代になり、優先順位を付けながらの、全然違う方向に今仕事が変わっています。ということは、私たちの先輩が持っていた、今まで培ってきた技術に加えて、今度は、自分たちがやっていることが将来どんな形に変わっていくのか、今までは作れば良かったのが、これからは作れば良いではなく、どういう形に直していくのかという発想、長期的な視点でものを見る職員、そういう人たちを育成していかなければならないと思っております。だから、目の前の仕事も大事だけれども、その目の前の仕事のさらに将来にあること、それをやるためには今は人数が非常に厳しいタイトな状態です。

そういう中でどうやったら出来るか。技術継承と簡単に言いますが、私は3つ分野があると思っています。1つは、議論の裏付けをしっかりとした技術、もう1つは経験値に基づいたノウハウ、もう1つはそれらを全体としてカバーするようなセンス、その3つの分野が揃わないとなかなか良い技術屋さんには育っていきませんし、財政部門でも同じだと思います。ですから、長くなりましたけれども、今回のビジョンでは、そういうことを皆さんに、市民の方にどうやったら伝えら

れるのかということと同時に、私たち職員が、それこそ木村先生がおっしゃったように「これだけのお金があるならば、君は何を優先的にやる？」とかそういうようなことを考える、いろいろなことに使える、内側にも外側にも使えるビジョンだと思っています。前回私は水道ビジョンを作るリーダーだったのですが、その時は作ることが目的でした。でも今回は違います。将来を考えることが目的のビジョンを今作っています。ですから、今回このようにいろいろな意見をいただいたことを私たちが取り込んで、この素案を成案に向かってどんな風にしていくのかというのが、ある意味私たちの力の見せ所だと思っています。勝手なことを申し上げましたが、そういう思いがあって作っているというふうにご理解いただければ嬉しいです。

委員長：ありがとうございます。

みなさまから、たくさんの意見をいただきましたが、いかがでしょうか。その他何かございますでしょうか。

(なし) 委員のみなさまからたくさんご意見をいただきましたので、反映させられるところは反映させていただいて、ビジョンの方を再構築していただければと思います。よろしくお願いします。

(2) 平成 30 年度予算案の概要について

委員長： それでは、次の(2)平成 30 年度予算の概要について、事務局から説明願います。

総務課長： 資料 2 の「平成 30 年度予算案の概要について」ご説明いたします。

水道事業会計予算案は、江別市水道ビジョン、江別市水道事業中期経営計画に基づき、市民生活のライフラインとして、常に安全で良質な水道水を供給するための予算編成としております。

資料の 1 ページをご覧ください。まず、収益的収入及び支出ですが、収入の給水収益は、人口減少、節水機器の普及等により減少傾向にありますが、平成 28 年度決算と 29 年度決算見込みが好調なことを反映し、前年度当初予算より 6,572 万 7 千円増の 20 億 7,273 万 3 千円を見込んでおります。収入合計では、25 億 9,035 万 2 千円を予定しております。一方、支出では、受水費や受託工事費などの減少により、合計では、前年度より 5,360 万 1 千円減の 22 億 4,907 万 1 千円を予定しております。この結果、収支差引では、3 億 4,128 万 1 千円となり、消費税を整理した純利益は、2 億 4,773 万 7 千円となる見込みです。

次に、2 ページの資本的収入及び支出ですが、収入では、出資金や国庫補助金などの減により、収入合計は前年度より 6,743 万 3 千円減の 4 億 8,966 万 4 千円を

予定しております。一方、支出合計は、前年度より 1 億 3,338 万円増の 15 億 934 万 4 千円を予定し、この結果、収支差引では、10 億 1,968 万円の収支不足となりますが、内部留保資金などをもって補填する予定です。

3 ページをご覧ください。(2) 業務量ですが、給水戸数は、5 万 309 戸、年間総給水量は、1,073 万 4 千立方メートル、1 日平均給水量は、2 万 9,408 立方メートル、年間総有収水量は、1,019 万 6,928 立方メートルで、有収率は、95.0%を予定しており、前年度との比較増減は記載のとおりです。

次に、(3) 主要事業についてですが、基幹管路耐震化事業は、耐震化計画に基づき、大麻送水管等 2,320 メートルを耐震管への更新を予定し、事業費は 4 億 3,417 万 5 千円、配水管整備事業は、老朽管の更新で延長 2,250 メートルを予定し、事業費は 8,991 万円、道路改良に伴う配水管整備で延長 3,600 メートルを予定し、事業費は 1 億 7,257 万 4 千円、配水施設整備事業では、江北ポンプ場動力盤更新等で、6,261 万 4 千円、浄水施設整備事業では、上江別浄水場バキュームブレーカ更新等で 2,793 万 6 千円、総事業費では事務費等を含め、8 億 7,607 万円を予定しております。

続きまして、下水道事業会計予算案の概要について、ご説明いたします。

下水道事業会計につきましては、江別市下水道ビジョン、及び江別市下水道事業中期経営計画に基づき、快適な生活環境、安全な暮らしを実現するための予算編成としております。

資料の 4 ページをご覧ください。まず、収益的収入及び支出ですが、収入の下水道使用料は、人口減少等により減少傾向にあります。平成 28 年度決算と 29 年度決算見込みが好調なことを反映し、前年度当初予算より 5,108 万 7 千円増の 13 億 6,596 万 2 千円を見込んでおり、収入合計では、35 億 6,778 万 8 千円を予定しております。一方、支出では、その他営業費用、支払利息などの減少により、合計では、前年度より 7,621 万 6 千円減の 33 億 9,153 万 7 千円を予定しております。この結果、収支差引では、1 億 7,625 万 1 千円となり、消費税を整理した純利益は、1 億 2,586 万円となる見込みです。

次に、5 ページの資本的収入及び支出ですが、収入では、企業債ほか全項目で減少し、収入合計は、前年度より 2 億 9,460 万 5 千円減の 10 億 8,712 万 3 千円を予定しております。一方、支出合計では、建設改良費ほかで、前年度より 2 億 4,374 万 2 千円減の 23 億 3,281 万 8 千円を予定しております。この結果、収支差引では、12 億 4,569 万 5 千円の収支不足となりますが、内部留保資金などをもって補填す

る予定です。

6 ページをご覧ください。

(2) 業務量ですが、年間汚水処理水量は、1,446 万 5 千立方メートルを予定しており、内訳は、下水道使用量が 1,075 万 5,289 立方メートル、南幌町負担分等が 370 万 9,711 立方メートルで、比較増減は記載のとおりです。

次に、(3) 主要事業についてですが、下段の合計欄で、ご説明いたします。

まず、雨水管路整備では、国道 12 号雨水管移設実施設計委託で 721 万円、汚水管路整備では、野幌駅周辺土地区画整理事業などで、延長 420 メートル、事業費は、1 億 4,111 万 7 千円、管路施設改築更新では、大麻地区の管路施設改築更新工事等で、事業費は、1 億 4,616 万 8 千円、処理場・ポンプ場施設改築更新では、浄化センター沈砂池機械設備更新等で 6 億 3,310 万 2 千円、処理場・ポンプ場施設耐震化では、耐震調査で 3,400 万円、総事業費は、事務費等を含めて 10 億 2,623 万 6 千円を予定しております。

以上です。

委員長： ただいま説明のあった、平成 30 年度予算の概要について、ご質問等はありませんか。

古川委員： 3 ページの (2) の業務量のところですが、どれを取っても平成 30 年度の方が増えている感がありますが、先程来説明があったように人口減少ですとか節水機器の普及ですとか、そういうことで水道の使用量等が減っているというお話だったのですが、また下水道の方でもそうですが、29 年度よりも 30 年度が上回っていることについての根拠を教えてくださいたいです。

総務課長： 両方共通して言えることですが、平成 27 年度までは有収水量が減少を続けていました。28 年度決算が若干 27 年度を上回るような形になって、29 年度の今のところ 28 年度と同じくらいの水量になっています。これを見ていきますと、若干下げが止まったかのような感じにも見えるのですが、1 年 2 年ではまだわからないのですが、ただ今の状況でいくといろんなプラス材料があることから、平成 29 年度の当初はもっと下がるという見込みだったのですが、決算見込みでいくとちょっと上がりそうな、28 年度並みになりそうだというところで、30 年度の業務量もそれに合わせて 29 年度よりも上げているというような状況です。

水道部次長： 下水道ビジョンにつきましては、平成 28 年度の決算を基に作成し、あの様な表現になりました。今申し上げたとおり、29 年度の決算を見ると思ったよりも収益が上がっているものですから、表現等はそれに合わせて変更していきたいと考えております。

委員長： 何か分析はあるのですか。なぜ上がっているのか。

水道事業管理者： 私から申し上げます。市長が各方面でご挨拶の時に言っていますけれ

ども、一昨年住宅取得支援補助金制度を導入し、それが奏功したのか、あるいは先ほど話題になった消費税が来年の10月から上がるということでの駆け込みもあるのか、実は人口が社会増に転じました。そもそも江別市の上下水道事業が黒字経営出来ていた理由は、道内からの転入者が江別の人口を押し上げてきていたからだ、統計上ははっきりわかっています。一番良い時には道外からも転入超過だったのです。その時には土地区画整理組合で開発された土地を購入して住んでいただいた、これが今までの江別を支えてきた良い部分と言いますか、人口増の部分です。

現在、野幌若葉町、大麻元町の開発のほか、いくつか小さい開発がすでに予定されております。冒頭で申し上げたように本当に一気に経営が傾いていくかどうか、ちょっと違うんじゃないかという要素もあります。例えば、月々前年同列人口を比較したら、600人から700人も減っていました。それが今は、200人前後くらいの減まで縮まってきており、それらが影響して現に給水戸数が5万戸を超えています。今回初めて5万戸を超えたのですが、そういう明るい兆しがあり、29年度も社会増が見込まれます。自然減を防ぐことはできないですけども、社会増となっている現状もありますので、思っているような勢いで収入が減少していくかどうかは、少なくとも29年度決算を踏まえてみませんと、現時点では断定できません。そんなことで、理由ははっきりとかわからないのですが、現に良い数字になっていますので、先ほど申し上げた形で30年度予算を増やしたということでございます。

委員長： ありがとうございます。他にございませんか。

なければ、本件につきましては、これで終了いたします。

これで、予定されていた議事はすべて終了いたしました。次の(3)その他について、委員のみなさまから、もしくは事務局から、何かありませんか。

総務課長： 今回、ご審議いただきました「次期上下水道ビジョン・経営戦略の素案」につきましては、本日いただいたご意見等を反映させるなど修正を行いまして、2月中旬に市議会経済建設常任委員会へ報告する予定です。

今年度の委員会は、今回で終了となります。来年度は7月下旬に第1回の委員会を開催したいと考えております。その時また、ビジョンの修正案をお示ししてご意見いただくななどしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。日程が決まり次第お知らせいたします。

以上です。

4. 閉会

委員長： 全体を通して何か、ご質問、ご意見等ございませんか。

なければ、以上をもちまして、平成29年度 第3回 江別市上下水道事業運営検

討委員会を終了いたします。ありがとうございました。